



# 吉田中だより

北九州市立吉田中学校  
平成29年11月1日発行  
第6号 文責 田代 真二

## 平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

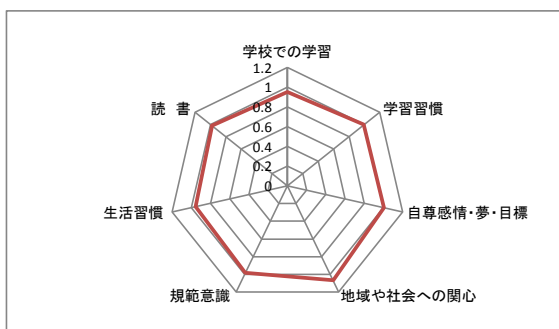
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	・全国平均正答率をやや下回っているが言語文化に関する事項でほぼ同等の力をつけてきた。 ・話し言葉と書き言葉の違いを理解する問題、文章をわかりやすく書く問題で正答率が低い。また漢字を書く問題では無解答率が20%を超える問題もあった。	下回っている
国語B	・全国平均正答率をやや下回っているが、読む力の向上が見られた。 ・表現の仕方について捉え、自分の考えを書く問題、話の論理的な構成や展開などに注意して聞く問題に努力が必要である。	下回っている
数学A	・全国平均正答率を下回っており、計算問題や立体図形の問題の空間における理解が深まった。 ・図形の証明、関数・グラフ、資料の整理の問題理解に課題が見られる。	下回っている
数学B	・全国平均正答率をやや下回っているが、県平均とはほぼ同等である。 ・事象の関係性を捉える問題に向上が見られた。 ・筋道を立て、論理的に考え、証明する力が不足している。	下回っている

### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



#### 質問紙調査の結果分析

・毎日同じ時間に寝ている生徒は全国平均より低く、朝食を毎日食べている生徒も少ない。また、メールやインターネットに時間を費やす生徒も多い。宿題は行っているが計画的に家庭学習に取り組んでいる生徒は少ない。規範意識は高く、地域や社会に関心はあるが自尊意識が低い。課題を自ら考え学習することの大切さ知り、話し合い活動を通して内容に対する理解を深める活動を継続していくことが求められる。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・授業の最初に必ずその時間の目標(めあて)を提示し、授業の流れを示し話しあいや発表の機会を確保、及び自ら課題や結果を文章に表し表現説明することで内容の定着を確実にする。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

・ネットやゲームに関わる時間を少なくし、読書機会を多く持つようはたらきかけ、継続して活用している吉田ノートを自学自習の中心とし家庭学習の定着を図る。また、将来に対する目標・夢を明確にし、それらの取り組みを学校通信等を通し保護者、地域との協力を深めていく。